

## 神経内分泌腫瘍に対する診断と治療

日時: 2月19日(水) 18:00 - 19:00

場所: 大阪大学医学部講義棟2階 B講堂

演者: 中本 裕士 先生

京都大学医学部附属病院 放射線部 准教授

神経内分泌腫瘍に対しては、手術、薬物療法に加え、近年では腫瘍細胞膜上に発現しているソマトスタチン受容体をターゲットとした核医学治療が海外では盛んに行われています。中でも Lu-177-DOTA-TATE を用いた  $\beta$  線核医学治療は、非放射性ソマトスタチンアナログ治療群に対する著明な無増悪生存期間延長と奏効率向上が第3相臨床試験で示されており (NETTER-1 Trial: Strosberg J, et al. N Engl J Med 2017)、我が国でも数年後の保険診療開始が見込まれています。

神経内分泌腫瘍の診断には、ソマトスタチン受容体イメージングが用いられています。京都大学ではこのイメージングに PET を導入し、多数の症例において臨床研究を行ってこられました。

本講演では、核医学手法を用いた神経内分泌腫瘍に対する診断と治療に関して、海外での現状とともにお話させていただきます。

\* 当セミナーは大学院セミナーに登録されています。

主催: 大阪大学 放射線科学基盤機構  
大阪大学医学部附属病院 放射線部  
大阪大学大学院 医学系研究科 核医学

問い合わせ先:  
大阪大学医学部附属病院  
放射線部 巽 光朗  
06-6879-6808



Osaka University  
Graduate School of Medicine